

## ADIと残留性の検討について

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13

## ADIの検討

毒性試験において最も低い用量で被験物質投与の影響が認められたと考えられる指標は、二ギ酸カリウムを98%含む被験物質を用いたラットの長期毒性/発がん性試験における胃の扁平上皮/基底細胞過形成発生率増加(400mg/kg 体重/日)で、NOAELは50mg/kg 体重/日であった。

## ADIと残留性の比較

一方、対象家畜等を用いた飼養試験における組織中のギ酸濃度を用いることでヒトの摂取量を試算することが可能だが、本製品の残留性が低いことにより、当該試験では至適添加量である1.8%の濃度で対照群よりも残留性が低く(筋肉)、ADIと比較することは適切ではないと判断された。